



Q&amp;A

JICA

に聞きたい!

Q

## 青年海外協力隊のOB会は どんな活動をしているの?

青年海外協力隊は、その経験を生かして帰国後も国内外でさまざまな活動を行っている。彼らの活動基盤の一つとなっている、協力隊出身者のOB会とは。



(上) 在日外国人の多い愛知県では、青年海外協力隊愛知県OB会の江口由希子さん(トンガ・体育隊員)が中心となり「外国人親子の子育てサロン」を運営している

(左) NPO法人都市計画・建築関連OVの会はエイズ検査施設の調査に協力。ガーナで聞き込みをする松村文雄さん(ケニア・建築隊員)

JICA青年海外協力隊事務局  
参加促進・進路支援課 課長

小路 克雄

PROFILE

1987年JICAに就職。派遣事業部、農業開発協力部、無償資金協力業務部(いずれも当時)、在イスラエル日本大使館、東ティモール事務所などを経て、2007年より現職。



## 「協力隊の経験を社会に 還元してくれることを期待しています」

都道府県別のOB会は、全国47都道府県で結成されており、各地域の出身者が主体となつて活動を進めています。彼らの強みは、何らかの形で途上国の地域づくりに関わってきたこと。その経験を生かし、日本の地域が抱える課題にも積極的に取り組んでいるのが特徴です。

派遣国別のOB会では、帰国後も活動した国とかかわりを持ち続けたいという熱意ある人が集まっています。よって、活動内容は各国との交流や支援、また、日本人にその国について知ってもらおうと、イベントなどを行っています。

**A** 青年海外協力隊のOB会は、帰国後、開発途上国での経験を社会のために生かしたいという人々が集まって活動する場の一つになっています。その始まりは1970年、熊本出身の協力隊OB・OGが立ち上げた「熊本県OB会(現熊本県青年海外協力協会)」です。その後、協力隊OB会設立の動きは徐々に全国に広まっています。今ではその数は約80団体に上ります。

会員数、活動の種類はさまざまですが、主なところで言うと、都道府県別(47団体)、派遣国別(18団体)、職種別(8団体)、シニア海外ボランティア(7団体)の4タイプに分けられます。いずれの団体も、全国で展開しているJICAボランティアの募集・広報活動、国際協力関連のイベント、出前講座など、日本国内に国際協力を広める重要な担い手です。

### こんな活動もやっています!

■青年海外協力隊東京OB会  
中高生を対象にパラオスタディーツアーを実施。

■青年海外協力隊ネパール会  
日本について知ってもらうため、JICAネパール事務所の現地職員を日本に招へい。

■NPO法人海外日本語ネット  
日本語教材の作成など、外国人の日本語学習を支援。

職種別のOB会には、各分野の専門技術・実務経験を持った人が集まっており、JICA事業の強力なプレーヤーにもなっています。現役の協力隊員のサポート、専門家として再び途上国に赴任するケースもあります。

シニア海外ボランティアのOB会では、豊富な人生経験と途上国での経験を生かしながら、シニアならではの地域に密着した活動を展開しています。そのほかにも、ここ2〜3年の動きとして、協力隊を経験した教員が、活動を通して得た知見や経験を教育現場でよりうまく生かしているところ、いくつかの地域で「教員ネットワーク」の立ち上げが始まっています。

協力隊派遣が始まってから44年が経ちますが、JICAは隊員としての活動だけでなく、帰国後の進路にも注目しています。彼らは、異国に飛び込み、人と人とのつながりの大切さなど、今日日本が失いつつあることを体感してきています。そんな現地での経験や気づきを持ち帰り、日本社会にどんどん還元して欲しい。その未知なる可能性に、私たちも期待しています。